

## いもち病の発生について

本年の水稻は、「おおむね順調」な生育状況になっていますが、梅雨の時期は葉いもち病に感染しやすく現在、一部に感染がみられます。「若い穂」がイネの茎の中で作られる「幼穂形成期」を迎えていることから、肥料や水の管理を適正に行い、特に感染しているイネを見つけたらすぐに対処して下さい。

### いもち病

いもち病は、収量・品質に多大な被害をもたらす病気です。

収量・品質に直接影響する穂いもちの防除は、葉いもちをいかに抑えるかがポイントです。



葉いもち



被害拡大



葉いもち蔓延

被害拡大



穂いもち

収量・品質



大幅低下

葉いもちをいかに抑えるかが、**キーポイント**

### ◆ 対策

いもち病菌は、曇天、長雨、少日照、やや低温(25度くらい)、高湿度の条件で感染しやすくなります。

感染に好適な気象条件が現れてからは、水田の見回りを広域に行い、早い段階で病斑を見つけて対応防除を行ってください。

葉いもちの発生が多い場合は、1週間毎に防除を行ってください。

治療剤

コラトップ粒剤